

論 説

交通經濟と道路の改良

中野金次郎



道路の經濟的價値は、道路が改良せられるに従つて次第に其の價値を増して來るのであつて、未だ改良せられざる所謂原始的狀態に在る道路は、其の經濟的價値が乏しいのみならず、寧ろ交通機關の圓滑なる運行に對して、非常な障礙を與へるものであると言はなければならぬ。

我國の道路は最近朝野の努力に依つて、漸く改良の緒に就いたのであるが、短日月の間に全國的に非常なる進捗を見て殊に大都市の道路の如きは、其の改良の跡の頗る見るべきものがあり、従つて道

路としての經濟的價値を増大しつゝあることは、交通經濟の見地より觀て洵に慶ばしい事である。

斯の如く道路の改良が、交通經濟に密接の關係を有することは事新しく言ふ迄もないが、いま之を交通資本交通用具及び交通能率の三方面より一二三の實例に徴して考へて見たいと思ふ。

二

從來陸上の交通機關としては、殆ど鐵道が唯一のものゝ如く考へられて居つたのであるが、自動車の著しい發達は、遂に鐵道の陸上交通機關獨占の位地に對して、非常な脅威を與へつゝある趨勢である。最近の傾向を見るに私設鐵道の如きは其の建設を見合せて、道路の利用に依る自動車營業をして之に代へんとするものが非常に多く、自動車線路許可の運動は益々猛烈になつて來つゝある。此の傾向は今後各地方の道路が逐次改良せられると共に、益々顯著になるであらう。

此の鐵道と自動車の關係を適當に調節して將來の交通政策を樹立するならば、所謂資本の二重投下を防止することが出来るのであつて、交通經濟の重大なる要素である所の資本の側より見て、洵に望ましい現象であると考へる。

三

交通機關が近代科學の進歩發達に伴つて漸次に機械化して來ることは當然の傾向であるが、これ

亦一面道路の改良と相俟つて、初めて新しき交通機關の利用が其の效果を發揮し從つて其の需要が増加して來るものであると考へる。

今全國の自動車に就いて最近の増加の趨勢を見るに、内務省警保局の調査に依ると次の如く増加して居る。

乘用自動車

大正十三年

昭和五年

一八、九五一臺

五七、九二七臺

八、二八二臺

三〇、八八一臺

計

二七、一三三臺

八八、七〇八臺

昭和六年の數字はまだ正確に現はれて居ないが、恐らくは十一萬臺近いものになつて居ることを察せられる。尙ほ其の他の機械力に因る車に就いて見ると

大正十三年

昭和五年

自サ
動イ
自ド
轉カ
其オ
他ト
的ミ
同ニ
種ク
類ル
のノ
車ル

九、六一九臺

二三、一三五臺

自轉車

三、六九〇、一三〇臺

五、七七九、二九七臺

右の如く増加して居るに比べて、一方人力或は畜力に因る車輛の數は著しい減退を示して居る。

大正十三年 昭和五年
一〇五、七一五臺 四二、六三五臺

人 力 車
一、九一三臺
乘 合 車
一〇五、七一五臺
荷 馬 車
三一〇、四七四臺
荷 車
一、九二二、五四七臺
一、八〇七、七八八臺

斯の如く自動車、オートバイ、其の他之に類するガソリンを用ふる所の車輛の利用が増加して居る反面に、人力、畜力に因るもののが著しく減少して居ることが明かである。右に示した荷馬車、荷車の數は、内務省の調査に於ては割合に減少して居らないやうであるが、此の數字は現存の車輛數を示すものであつて、實際に利用されて居るのは此の數字より少しずつと減少して居るものと想像されるのである。

東京府管内のみに就いて見ても同様の傾向が現はれて居る。

大正十三年 昭和五年

貨 物 自 動 車
一、九七七臺
荷 馬 車
一三、一七三臺
荷 車
七、五四一臺

是等の傾向を示すに至つたのは、たしかに道路が改良された結果、年々新しき交通機關の利用が増加したものと謂はなければならぬのである。

四

殊に東京市に於ては、其の道路の鋪装が全市に亘つて大半完了せられた爲に、車輛の運行を容易にし、交通能率の上に非常な好成績を收めて居る。最近或る一定の場所に於て調査した結果に依ると、各種の車輛の運行能率は、

荷車 二・二回

自動車 八・二回
オートバイ 一二・八回

といふ成績を示し、又其の賃率に於ても、

荷車 二・〇〇圓
自動車 一四・五〇圓
オートバイ 五・五〇圓

といふ成績を示して居るのである。斯の如く道路の改良に伴つて、旅客用の人力車、乗合馬車等が影を没して、自動車の利用が盛になるのは勿論の事であるが、貨物運搬用としても、荷車、荷馬車の利用は次第に減退しつゝある實況である。

東京市に於ては、道路鋪装の完了した結果、從來年々四百六十萬圓を要した道路維持費が二百六十萬圓ほど節約せられることになつたとの事である。是は單に道路の維持費だけに就いての數字で

あるが、之に加ふるに交通用具の利用能率の増加に因る經濟上の利益を加算したならば、一箇年に東京市民の利益する所の額は恐らく數千萬圓に上るものと思はれるのである。

五

最近政府に於てはガソリン税創設の議があるやに聞くのである、未だ其の内容の詳細は承知しないが、前述する如く自動車の利用は道路の改良に負ふ所が甚だ大であり、而して道路の改良が交通經濟と密接の關係ある點に鑑みたならば、ガソリン税の新設に依る國庫の收入の如きは、宜しく之を道路改良事業に充てらるべきものであると考へる。近來失業救濟事業として各方面に於て道路の改良が行はれて居ることは、交通經濟上より見ても洵に慶ぶべき事であるが、今回のガソリン税の創設の如きも、其の得たる收入を以て積極的に道路改良の方面に利用されるならば、一層その意義を深からしめるものと謂ふべきである。

六

道路の改良が交通の上に及ぼす經濟上の具體的數字に就ては、我國に於て未だ確然たるものをしていないことを遺憾とするのであるが、幸に道路改良會の如き有力なる團體が力を致されて、今後各方面に於て是等の具體的數字を研究調査せられ、以て道路の改良を促進するの資に充てられることは、我國將來の産業發達の上に緊要な事であらうと信ずる次第である。